
小走りホラー～出涸らし編～

弥招 栄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小走りホラー〜出洩らし編〜

【Nコード】

N8663C

【作者名】

弥招 栄

【あらすじ】

ご存知？小走りホラー、ショートショートホラー集です。連載物のあとがきのネタとして書いたものをまとめました。小走りホラーは発起人の影之兎チャモさんをはじめ、複数の作者さんも書かれていますので、「小走りホラー」で検索してみてくださいね。

+

「今日のカレー旨いじゃん」

「ねえ」

「なに？」

「カレー味のウ　コと、ウ　コ味のカレー、どっちがよかった？」
「え……」

+

+

「ねえ、あたしのためだったら死ねるって言ってくれたわよね」

「ああ、もちろんさ、ハニー」

「じゃあ、今死んでっ！」

+

+

おでんの季節だ。

玉子の代わりに、あなたの目玉とか、

白滝の代わりに、あなたの髪の毛とか、

巾着の代わりに、あなたのきピーツとか……

+

+

あなたが私にくれたもの。
この胸いっぱい愛と。

このおなかに宿る新しい命と。
この子が生まれるまでの間の食料。

十

十
僕の腕に蚊が一匹止まった。

そのときの僕は、とても優しい気持ちだったので、微笑みながら言
ったんだ。

さあ、好きなだけ飲んだらいいよ。

『さんが、死体で発見されました。不可解なことに、その体には一滴の血も残されておらず……』

十

十
眠れない……

明かりを消そうとすると蛍光灯が、

消さないで

って涙をこぼすから。

十

十
俺は町で拾った女と、霊園に来ていた。好都合なことに、誰もいない。
い。

「ほんと、あなたしかいないものね」
イキテイルニンゲンハ……

+

+

……み……みずを……

渴きのために朦朧とした俺の口に、ひんやりとしたものが注がれた。
ああ……

だがそれは、うねうねとくねり

+

+

月食のとき、月は暗い赤に染まるんだ。
みんな、月を見上げているから気づかないけど、
人の影も赤くなるんだよ。

でもね、それを見たらいけない。

だって……見たら本当になっちゃうから。

影を染めるのが、あなたの血だって

+

+

妻の遺書を見つけた。

僕を殺して自分も死ぬって書いてあった。
ちよつと見つけるのが遅かったなあ……

+

+

「そういう趣向は前もって言ってくれないと……」
一週間前、長期出張の直前に届いた大きな箱の中身に向かって、僕はつぶやいた。

+

誕生日おめでとー。プレゼントは、わたし

+

「赤が好きーっ！」
そう叫びながら走り去って行く彼女の両手は、僕の血で染まっていた。

+

（おしまい？）

そう、おしまい……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8663c/>

小走りホラー～出涸らし編～

2010年10月20日15時44分発行